

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
必修	2単位	卒業研究Ⅱ	高山 有紀	2年次	秋

授業のキーワード	教育史、子どもと社会
授業の概要	日本の教育の歴史を概観し、その上に立つ現代の教育と、教育をとりまく状況について理解していきます。また、ゼミ論文を完成させます。
期待される学習成果（目標）	①教育の歴史を通じ、日本や日本社会についてより深く理解することができるようになります。 ②教育の歴史を通じ、人間についてより深く理解することができるようになります。

## 授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	オリエンテーション	授業の進め方について説明します。	第9講	報告	ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。
第2講	報告	夏休み中に行った作業をふまえ、ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。	第10講	報告	ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。
第3講	報告	夏休み中に行った作業をふまえ、ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。	第11講	個別指導	ゼミ論文執筆の個別指導。必要に応じて履修者同士の情報交換を行います。
第4講	報告	ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。	第12講	個別指導	ゼミ論文執筆の個別指導。必要に応じて履修者同士の情報交換を行います。
第5講	ゼミ論文の書き方	本格的な執筆活動に向けて、担当者が模擬報告を行います。卒業生のゼミ論文を読みます。	第13講	個別指導	ゼミ論文執筆の個別指導。必要に応じて履修者同士の情報交換を行います。
第6講	報告	ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。	第14講	個別指導	ゼミ論文執筆の個別指導。必要に応じて履修者同士の情報交換を行います。
第7講	報告	ゼミ論文に関する報告を各自で行います。質疑応答。	第15講	まとめ	ゼミ論を提出します。本講での学習内容を総括します。
第8講	中間のまとめ	各自の報告を受けて、留意すべき点や資料収集の方法について情報を共有します。	定期試験		ゼミ論の提出を受け、その内容と努力の度合いにより評価する。
評価方法		授業への取り組み（30パーセント）、課題に対する評価（70パーセント）により総合的に評価する。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
			山本正身『日本教育史 一教育の「今」を歴史から考える一』（慶應義塾大学出版会） 海後宗臣・仲新・寺崎昌男『教科書でみる近現代日本の教育』（東京書籍） 小山静子『子どもたちと近代一学校教育と家庭教育一』（吉川弘文館）		